

(一般情報)

## 施設トマト環境制御技術の実証調査がはじまります

～施設野菜生産の次世代モデルを目指して～

海匠農業事務所改良普及課 令和3年1月12日発

旭市飯岡地区の沿岸部には大玉トマトの産地があり、温暖な気候を生かした越冬栽培が行われています。しかし、近年、燃料費の高騰や他産地の生産量増加による単価下落の影響を受けており、厳しい経営状況が続いています。

そこで農業事務所では、全国農業システム化研究会（[一社]全国農業改良普及支援協会と民間企業が参画）と共同で、環境制御技術による収量向上と経営改善の実証調査を始めました。環境制御技術とは施設内の栽培環境をコントロールし収量を向上させる技術です。1件の施設に炭酸ガス施用装置（クボタアグリサービス株式会社）、統合環境制御装置（株式会社ニッポー）を試験導入し、生産性向上の実証調査を2年間かけて行う予定です。

農業事務所では、実証調査を通じて施設野菜生産の次世代営農モデル構築に取り組んでいきます。



ほ場の様子と炭酸ガス施用装置（赤丸部分）



統合環境制御装置（換気、灌水などを制御）